

小池の題目板碑



2024年11月30日～12月1日

「ふるさとの歴史展」展示

場所:オーエンス八千代市民ギャラリー

八千代市郷土歴史研究会
藤由美

1. はじめに

- ▶ **板碑**は鎌倉時代から室町時代に、両親の追善や自身の生前供養（逆修）のために建てられた石の塔婆です。
- ▶ 地域の中世を物語る史料について、古文書や遺跡の調査事例が少ない中で、寺の境内や墓所、集落裏の山林・畑から見つかる板碑は、貴重な金石文史料です。
- ▶ **小池**では「南無妙法蓮華經」の題目を刻んだ日蓮宗系の板碑20基が記録されています。
- ▶ これらは、以前妙光寺があったと伝えられる「寺山」から見つかった板碑です。
- ▶ 20基のうち紀年銘が古いのは明德二年（1391）、新しいのは永正十一年（1514）で、ほとんどが室町時代の15世紀です。
- ▶ **本展示**では、妙光寺様と浅野様からお借りした板碑実物と、本会会長であった故村田一男先生が採拓された拓本（複製）を八千代市立郷土博物館の提供でご覧に入れます。

2. 板碑とは？

「板碑」とは、板状の石材に仏像を表す種子（しゅじ）や題目、被供養者名や年月日を刻んだ石塔で、鎌倉時代から室町時代の仏教の供養塔です。

関東では、埼玉県を中心に広く分布する緑泥片岩を板状に加工した「武蔵型板碑」と、利根川下流域に分布する雲母片岩製の大型の「下総型板碑」があります。

☆下総の板碑の種類

- ・ 形態から 1. 武蔵型板碑 2. 下総型板碑
- ・ 本尊から 1. 凶像板碑 2. 種字板碑
3. 題目板碑



神野・玉蔵院の下総型板碑



高本・湯浅家の武蔵型板碑

3. 板碑とは？「武蔵型板碑」

- ・ 関東の板碑の多くは、秩父産緑泥片岩を使用し、頭部が三角で二条線を刻み、薄く長細い形をした「武蔵型板碑」と呼ばれる板碑です。
- ・ 鎌倉時代、荒川中流域（畠山・吉見・比企・川越氏の支配地）の武士団を中心に、建立され、関東全域に広がりました。
- ・ 埼玉県などでは、鎌倉時代の大型の武蔵型板碑も多数みられますが、時代が下がるにつれて、小型の簡略な板碑が多量に流通し、下総では戦国時代の終わりまで続きます。
- ・ なお、埼玉県小川町・長瀨町ではこれらの板碑の採石場遺跡が見つかっています。

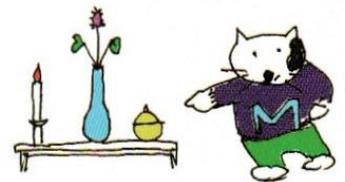
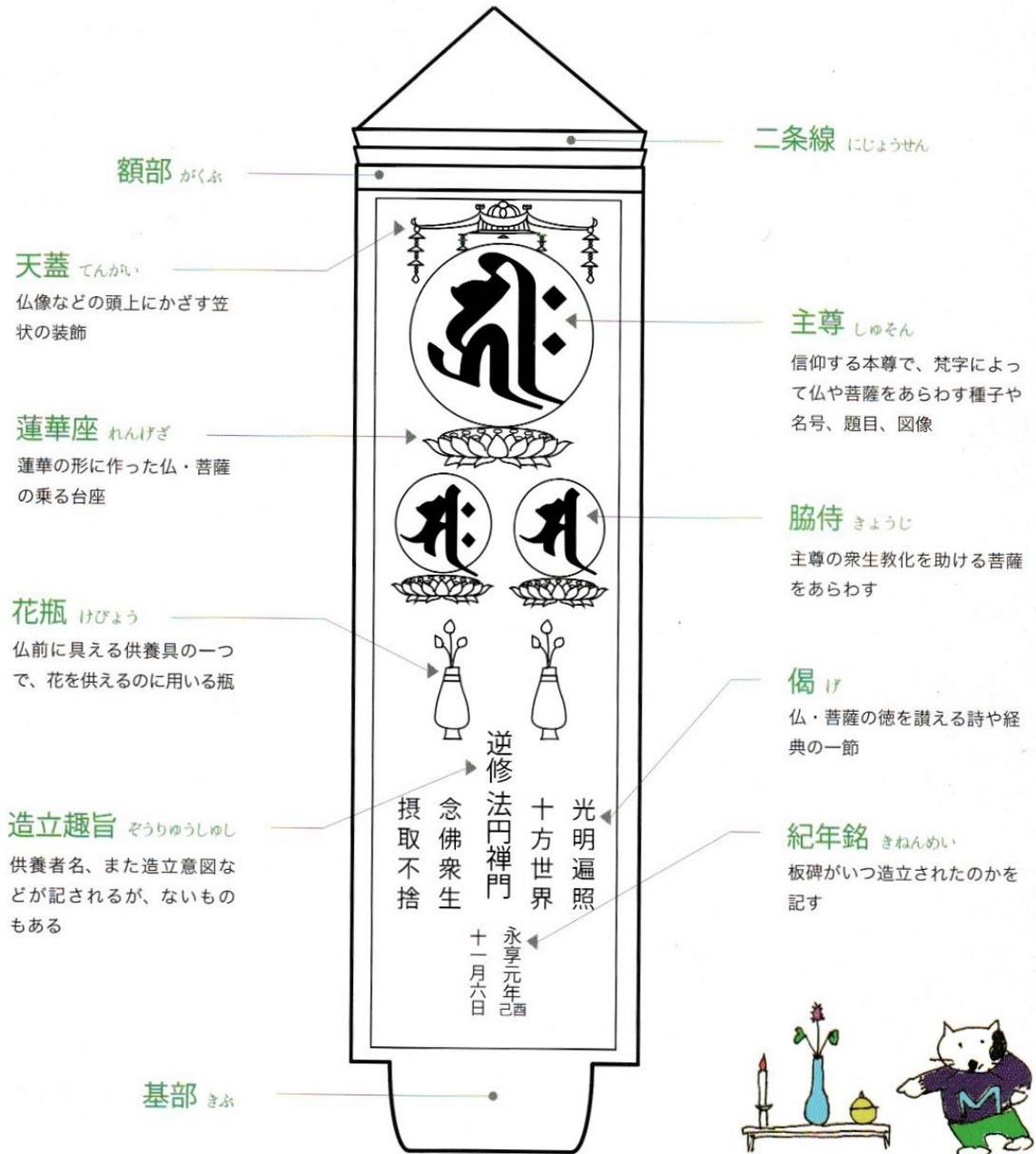


八千代市立郷土博物館の板碑の展示

4. 板碑とは？「武蔵型板碑」

板碑の各名称

「江戸川区の板碑」展図録より



武蔵型板碑の特徴

- ▶ 緑色片岩を石材として利用
- ▶ 板状に成形され、上部が三角に尖り二条線を持つ
- ▶ 13世紀前半から17世紀初頭にかけての中世に関東近郊で製作された石造物

5. 板碑とは？「武蔵型板碑」



埼玉県立歴史と民俗の博物館
武蔵型板碑の展示



千葉市文化財 真蔵院の武蔵型板碑
永仁2年（1294）銘。
武石胤盛が母の供養に建立。



八千代市文化財
米本長福寺の武蔵型板碑
文正2年(1467) 他

6. 板碑とは？「下総型板碑」

千葉県北部では、筑波石（黒雲母片岩）製で厚く大きめの「下総型板碑」と呼ばれる板碑が香取市や成田市、印西市などに多く分布しています。



宗吾靈宝館（成田市）
下総型種字板碑
左：明徳2年（1391）銘
右：康永元年（1342）銘
2017.6.12撮影



竹林山妙光寺（多古町）
下総型題目板碑群
左：応安4年（1371）銘
右：応永15年（1408）銘
2017.6.20撮影

7. 板碑の本尊は？ (1) 凶像板碑



日本最古の板碑
嘉禄3年（1227）銘 阿弥陀三尊凶像板碑
下は復元品
熊谷市須賀広（畠山重忠三十三回忌の供養塔か）
熊谷市Web博物館から



元享4年銘（1324）銘
阿弥陀一尊凶像板碑
東京国立博物館所蔵
2018.7.26撮影

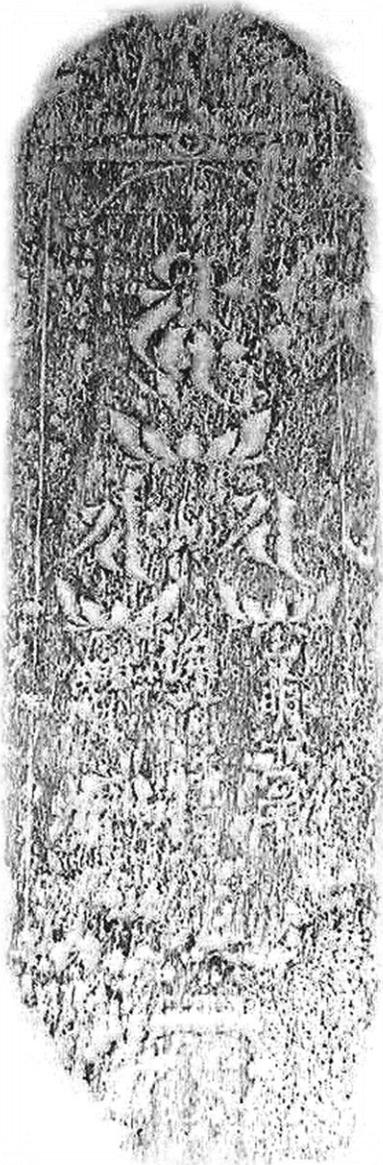


8. 板碑の本尊は？ (2) 種字板碑-1

阿弥陀三尊と阿弥陀一尊

阿弥陀三尊種字 =
阿弥陀如来キリクと
脇侍の観音菩薩サ・勢至菩薩サク

阿弥陀一尊種字 =
阿弥陀如来キリクのみ
ほとんどの板碑の種字はこのキリクのみ



神野の土井昭雄家のキリク一尊種字板碑 延文5年(1360)銘

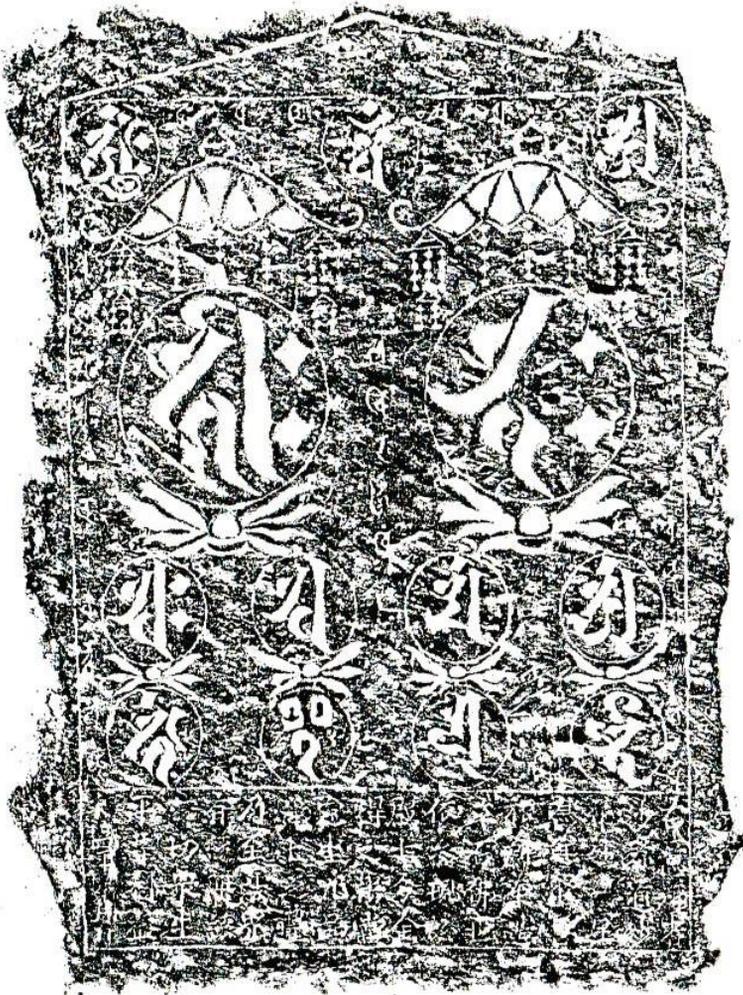


上高野金乗院の阿弥陀三尊種字板碑
文明11年(1479)銘
天蓋付



9. 板碑の本尊は？ (2) 種字板碑-2

十三仏種字板碑



八千代市の十三仏板碑

下総型十三仏種字板碑

印西市吉高の羽黒十三仏堂の本尊の下総型板碑。
 最古の十三仏板碑で、南北朝時代後期 永和四年（1378）
 十三仏とは死者の年忌をつかさどる13の仏を指す。

拓影：『下総板碑』清水長明 1984



10. 板碑の本尊は？ (3) 題目板碑-1

題目板碑＝「南無妙法蓮華經」の七字題目などが日蓮宗独特の筆法（髭題目）で線刻された板碑

①一遍首題の板碑
＝「南無妙法蓮華經」の七字題目を刻む板碑（右拓影）

②題目二尊の板碑
＝「南無妙法蓮華經」に「多宝如来」と「釈迦牟尼仏」が加わる

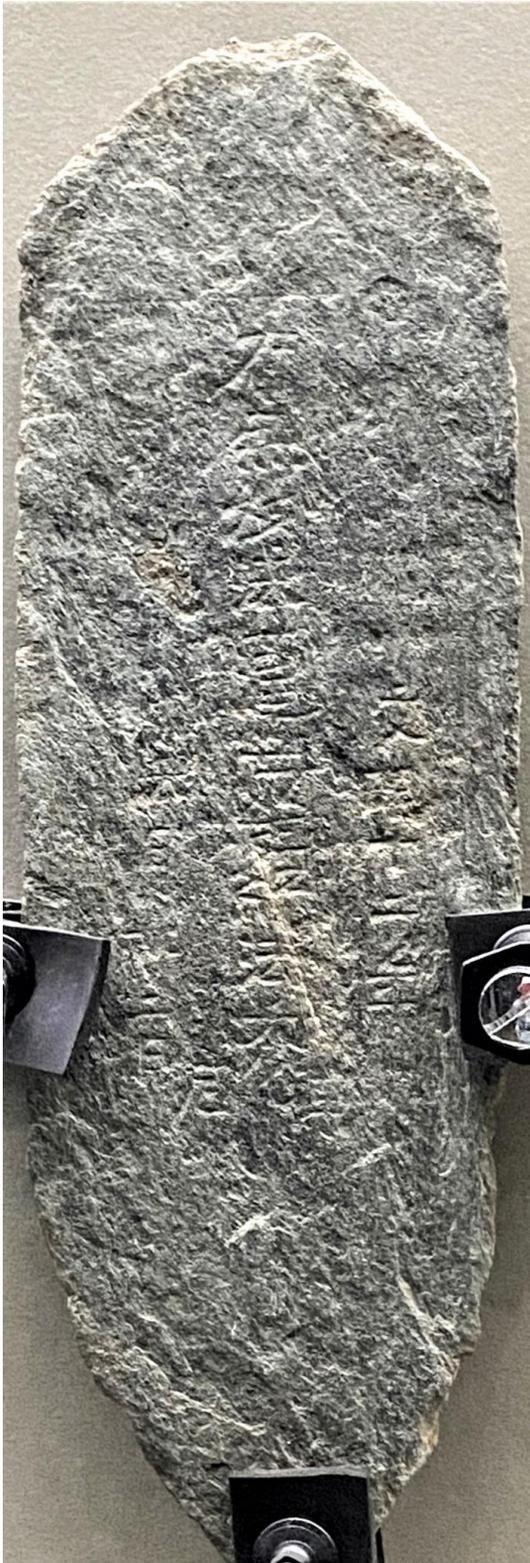
③曼荼羅の板碑
＝中央に題目と二尊、諸神諸仏、四隅に四天王、左右に愛染明王と不動明王の種子、題目の下に鬼子母神と十羅刹女の文字を刻む



島出台 間見八真跡の板碑
「南無妙法蓮華經」銘

11. 板碑の本尊は？ (3) 題目板碑-2

① 「南無妙法蓮華経」の一遍首題を刻む板碑



「南無妙法蓮華経」銘板碑
小池 文明12年（1480）
八千代市立郷土博物館展示

葛飾城跡出土の題目板碑
享禄4年（1528）銘
金文字
葛飾区天文と郷土博物館



12. 小池の題目板碑-1 一遍首題の板碑

武蔵型 完形 題目(一遍首題)板碑 文明12年(1480) 44.5×14.0 cm

文明十二年
南無妙法蓮華經法秀
尼 禪
六月廿三日



13. 小池の題目板碑-2 一遍首題の板碑-2

小池で最古の年銘の板碑

武蔵型 完形 題目 (一遍首題) 板碑 明德2年 (1391) 67.0×23.0 cm

南無妙法蓮華經

明德二年
未□

清
□
□
□
居士



14. 小池の題目板碑-3 一遍首題の板碑-3

武蔵型 断碑 題目 (一遍首題) 板碑 応永29年 (1470) 36.5×18.1 cm

南無妙法蓮華經

應永廿九年十月二日



15. 小池の題目板碑-4 一遍首題の板碑-4

武蔵型 完形 題目(一遍首題)板碑 永正7年(1510) 61.0×19.0 cm

南無妙法蓮華經
□道□□

永正七年
□庚

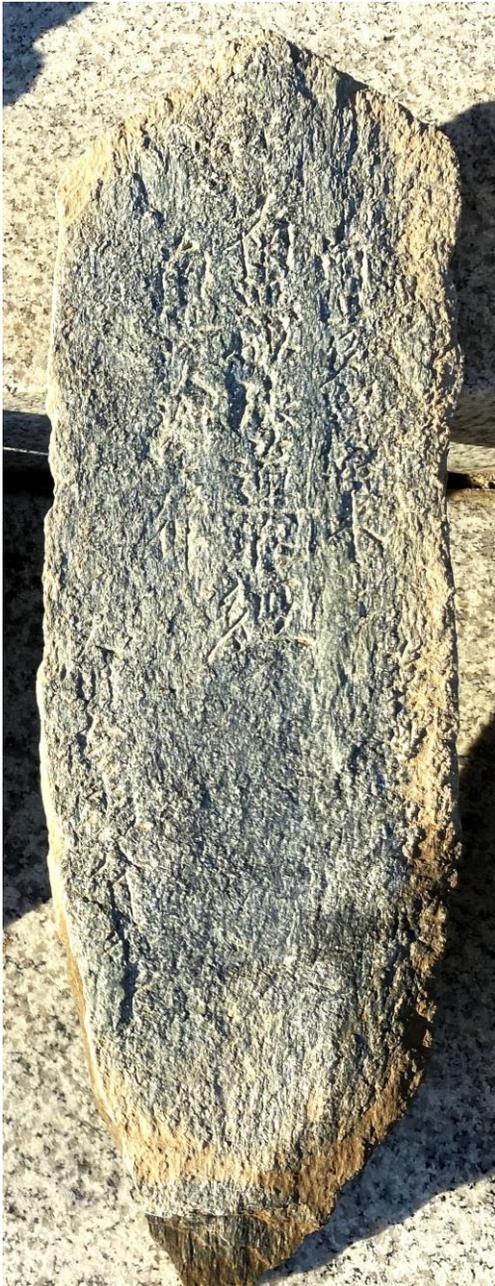


16. 板碑の本尊は？ (3) 題目板碑-3

② 題目二尊の板碑：

「南無妙法蓮華經」に、「南無多宝如来」と
「南無釈迦牟尼仏」の二尊が加わる

小池 妙光寺の題目二尊板碑
文明5年（1474）



一塔兩尊式の貞和2年銘題目板碑
(東松山市妙昌寺)

17. 小池の題目板碑-5 題目二尊の板碑-1

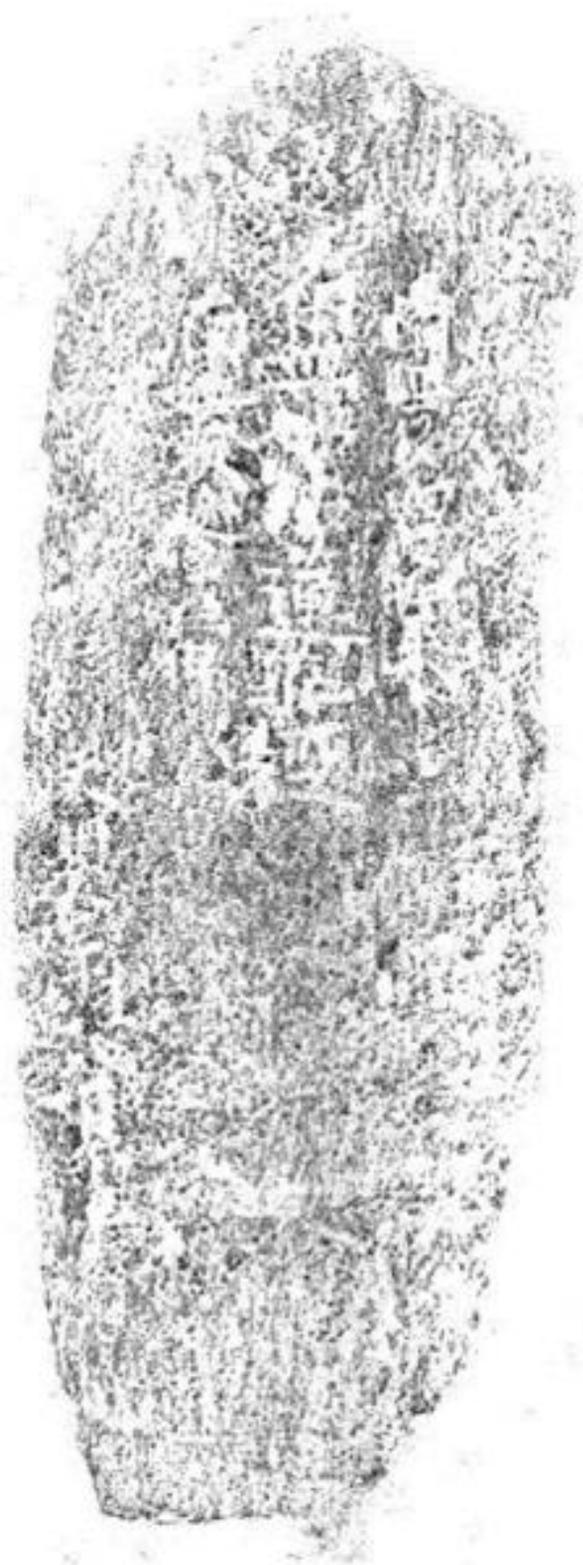
武蔵型 完形 題目 (首題兩尊) 板碑 文明5年 (1473) 44.6×15.0 cm

南無多寶如来

南無妙法蓮華經

南無釈迦牟尼佛

文明五年癸巳八月



18. 小池の題目板碑-6 題目二尊の板碑-2

武蔵型 断碑 題目（首題兩尊）板碑 文明2年（1470） 40.5×14.1 cm

「蓮華經
南無釈迦牟尼佛

過去妙日比丘尼

敬
白
文明二年十月日



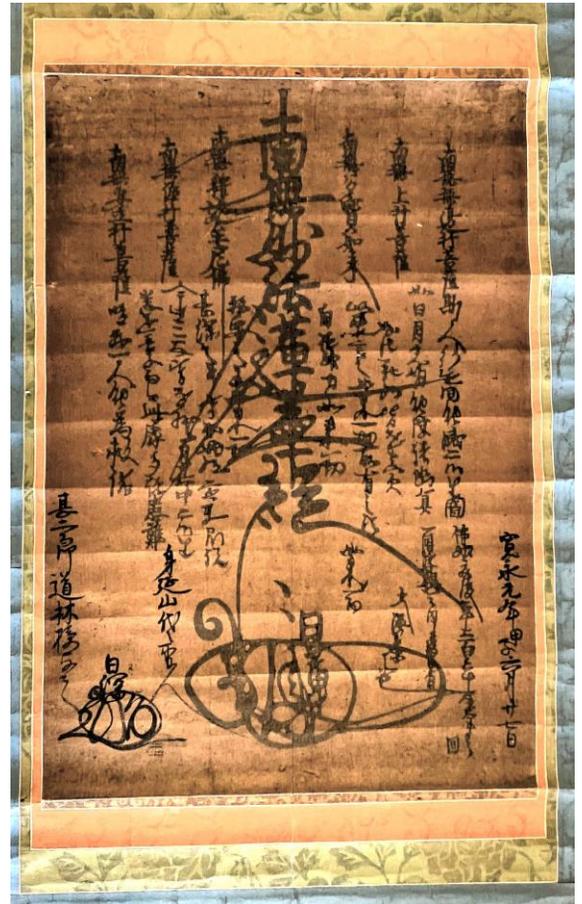
19. 板碑の本尊は？ (3) 題目板碑-4

③曼荼羅の板碑：

中央に題目「南無妙法蓮華經」右に多宝如来、左に釈迦牟尼の二尊に、鬼子母神と十羅刹女さらに諸神諸仏、四天王、左右に愛染明王と不動明王の種子などを刻む十界曼荼羅板碑と題目二尊に鬼子母神と十羅刹女のみを加えた曼荼羅板碑があります



小池 妙光寺の
十界曼荼羅板碑
延徳4年（1492）



真木野の
大曼荼羅掛軸
寛永元年（1624）

20. 小池の題目板碑-7 十界曼荼羅の板碑-1

武蔵型 完形 題目 (曼荼羅) 板碑 延徳4年 (1492) 53.5×15.8cm



大日天王 孝子敬白

南無无邊行菩薩 南無大梵天王 鬼子母神

南無上行菩薩 南無舍利弗尊者等

南無多寶如来 南無文殊師利菩薩

南無妙法蓮華經 南無法王聖人

南無釈迦牟尼佛 南無弥勒菩薩

南無淨行菩薩 南無釋提桓因 十羅刹女

南無安立行菩薩 大月天王 妙法比丘尼石佛也

延徳四季五月廿三日

21. 小池の題目板碑-8 十界曼荼羅の板碑-2

武蔵型 完形 題目曼荼羅板碑 50.0×15.0 cm(拓本)

大持国天王 (不動明王) 大広目天王

大日天王鬼子母神

南無多宝如来 南無文殊師利菩薩 右志□妙上

比丘尼菩提也

南無妙法蓮華經 南無法主大聖人

南無釈迦牟尼仏 南無普賢菩薩菩提「」 「八」季十月十二日

大月天王十羅刹女

大毘沙門天王 (愛染明王) 大増長天王



22. 小池の題目板碑-9 曼荼羅の板碑-1

武蔵型 完形 題目 (曼荼羅) 板碑 応仁3年 (1469) 67.0×26.0 cm

南無多寶如来 鬼子母神

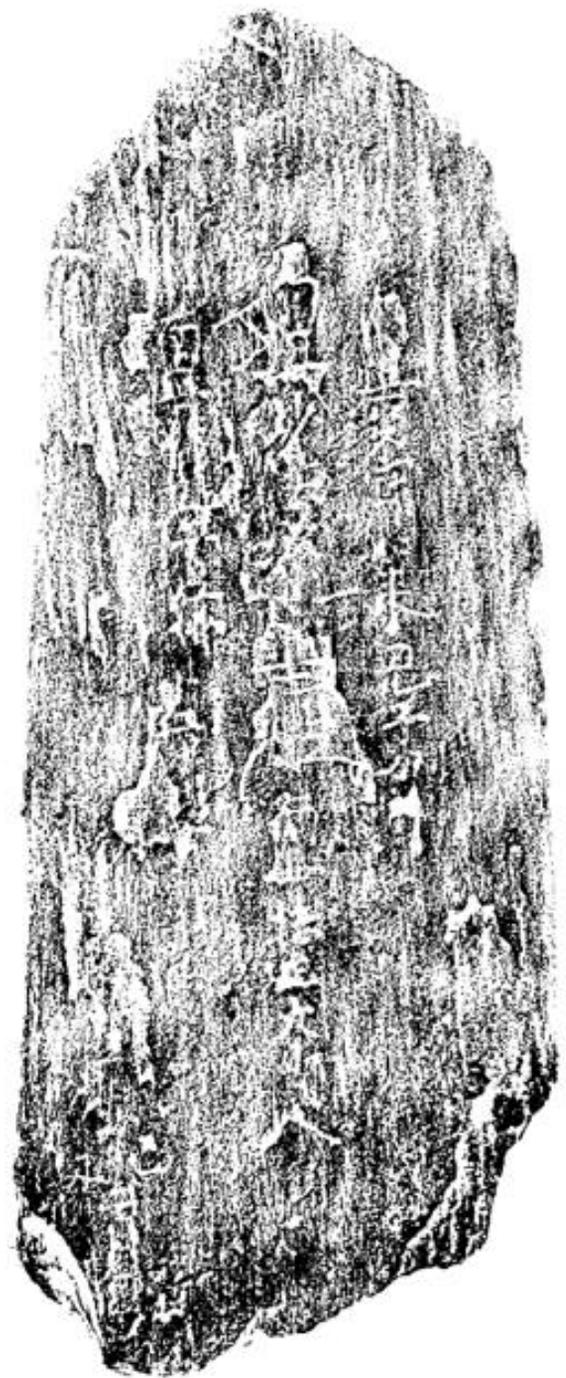
南無妙法蓮華經 南無法主大聖人

南無釈迦牟尼佛 十羅刹女

〔 〕

敬

応仁三年己丑二月白



23. 小池の題目板碑-10 曼荼羅の板碑-2

武蔵型 完形 題目(曼荼羅)板碑 文明6年(1474) 49.0×18.5 cm



南無多寶如來

鬼子母神

南無妙法蓮華經

南無法主大聖人

南無釈迦牟尼佛

十羅刹女

施主

文明六年
甲午二月時正

24. 小池の題目板碑-11 曼荼羅の板碑-3

小池で最新の年銘の板碑

武蔵型 完形 題目(曼荼羅)板碑 永正11年(1514) 42.0×14.5 cm

南無多寶如来 鬼子母神 永正十一年
法主大聖人
南無妙法蓮華經
妙正比丘尼(菩提)
南無釈迦牟尼仏 十羅刹女 四月十四日



25. 小池で新発見の題目板碑

・令和6年度の小池地区の総合調査で、新たに題目板碑が1基見つかりました。

・緑泥片岩の武蔵型板碑で、銘は「〔 〕妙法蓮華經／〔 〕宝如来／〔 〕釈迦牟尼佛／妙法尼逆修／石佛／明應二二年（四の異体字）乙卯八月日敬白」、
「題目二尊」の板碑です。

・「妙法尼」が本人の「逆修」のために造立した「石佛」で、年銘の明應4年（1495）と人名が判明できる「逆修」の題目板碑です。

・「逆修」とは、本人が生前に後生安楽を祈る法要のことであり建てた正確な造立年銘がわかる貴重な史料です。

・「石佛」の銘は延徳4（1492）年銘の小池妙光寺の曼荼羅板碑にも「妙法比丘尼石佛也」とあり、「石の仏」として礼拝されていたこと、また「妙法尼」は延徳4年銘の板碑銘の「妙法比丘尼」と同一の女性であったと推察されます。



26. 小池の題目板碑-12 題目二尊の板碑-3

武蔵型 断碑 題目(題目二尊)板碑 明応4年(1495) 40.5×15.5cm

〔 〕 宝如来
〔 〕 妙法蓮華經
〔 〕 釈迦牟尼佛

妙法尼 逆修
佛石

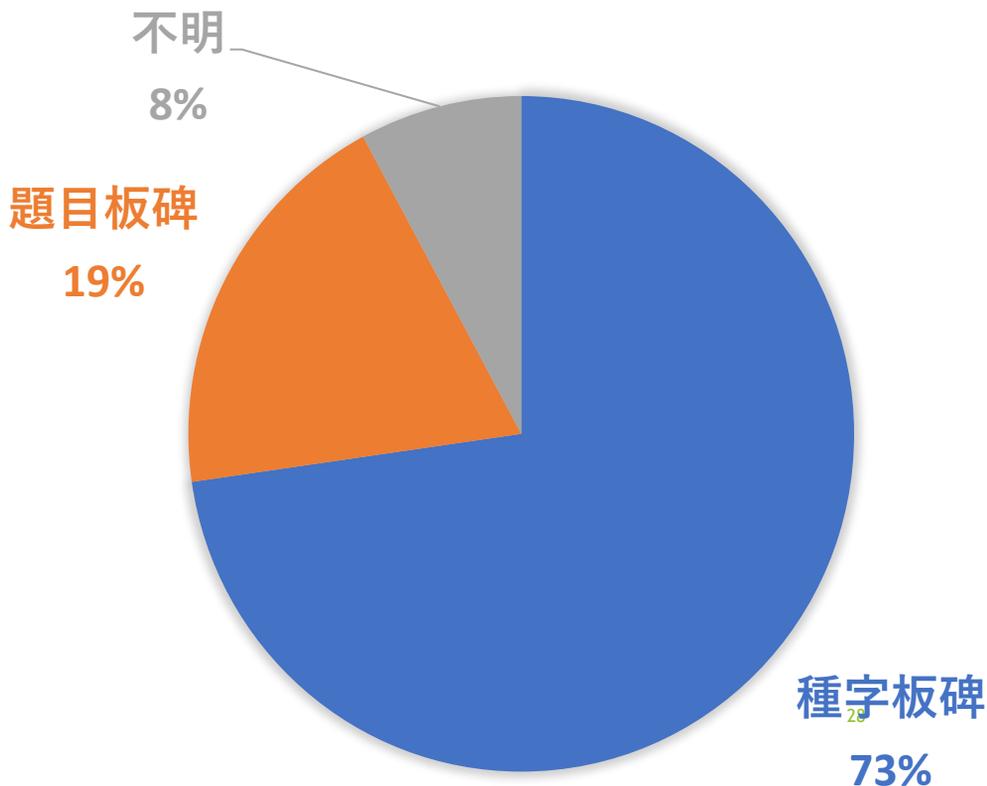
明應二年卯八月日 敬白



27. 八千代市内の板碑の種類と分布

- ・ 八千代市内の有刻板碑の総数*は、2024年11月現在で165基です。（*銘文や種子などが刻まれている板碑で無刻や破片を除く）
- ・ うち種字板碑は120基、題目板碑は32基、不明が13基です。
- ・ 題目板碑の分布は、小池・佐山・平戸・平戸台・島田・島田台・桑納・真木野の地区に限られ、その他の地区は種子板碑です。

八千代市内板碑の種類別割合



28. 題目板碑の分布の背景

元徳3年（1331）、千葉胤貞から養子の日祐（中山門流のトップ）へ、所領である千田庄・白井庄・八幡庄内の一部の土地などの譲与が行われ、八千代市内では、嶋田村・真木野村・平戸村がその勢力下に入りました。

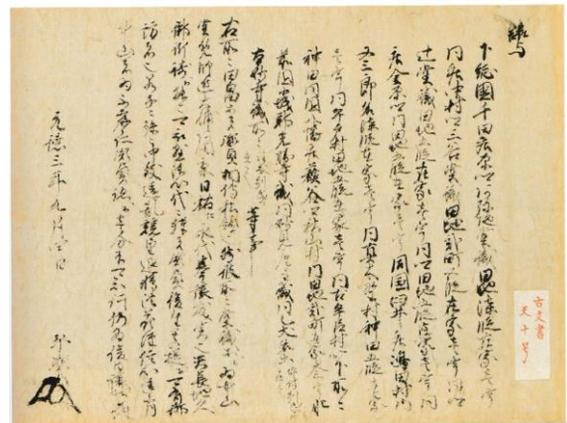
元徳三年九月四日「千葉胤貞譲状」（『下総中山法華経寺文書』）

譲與

下総国千田庄原郷阿弥陀堂職田地七段、在家壺宇、
同庄中村郷三谷堂職田地貳町五段、在家壺宇、
同郷辻堂職田地五段、在家壺宇、同郷田地五段、
在家壺宇、同庄金原郷内田地五段、在家壺宇、
同国白井庄嶋田村内又三郎名七段、在家壺宇、
同真木野村神田五段、在家壺宇、同平戸村田地五段、
在家壺宇、同古牟呂村以下、處々神田、
同国八幡庄曾谷郷秋山村内田地貳町、在家壺宇、
肥前国小城郡光勝寺職、同妙見座主職、
同乙犬名坪付別紙在之、本妙寺職、所々注文別紙在之等事
右、所々田畠者、胤貞相伝私領也、然彼所々堂職等お、為中山
堂免、師匠大輔阿闍梨日祐仁、永代奉讓處実也、天長地久
御祈禱お、能々可被懸御心、代々殊者胤貞後生菩提お、可有御
訪者也、若子々孫々中、致違乱競望、退伝法華経信心、違背
中山者、為不孝仁、胤貞跡お壺分不可知行、仍為後日譲状如件、

元徳三年九月四日

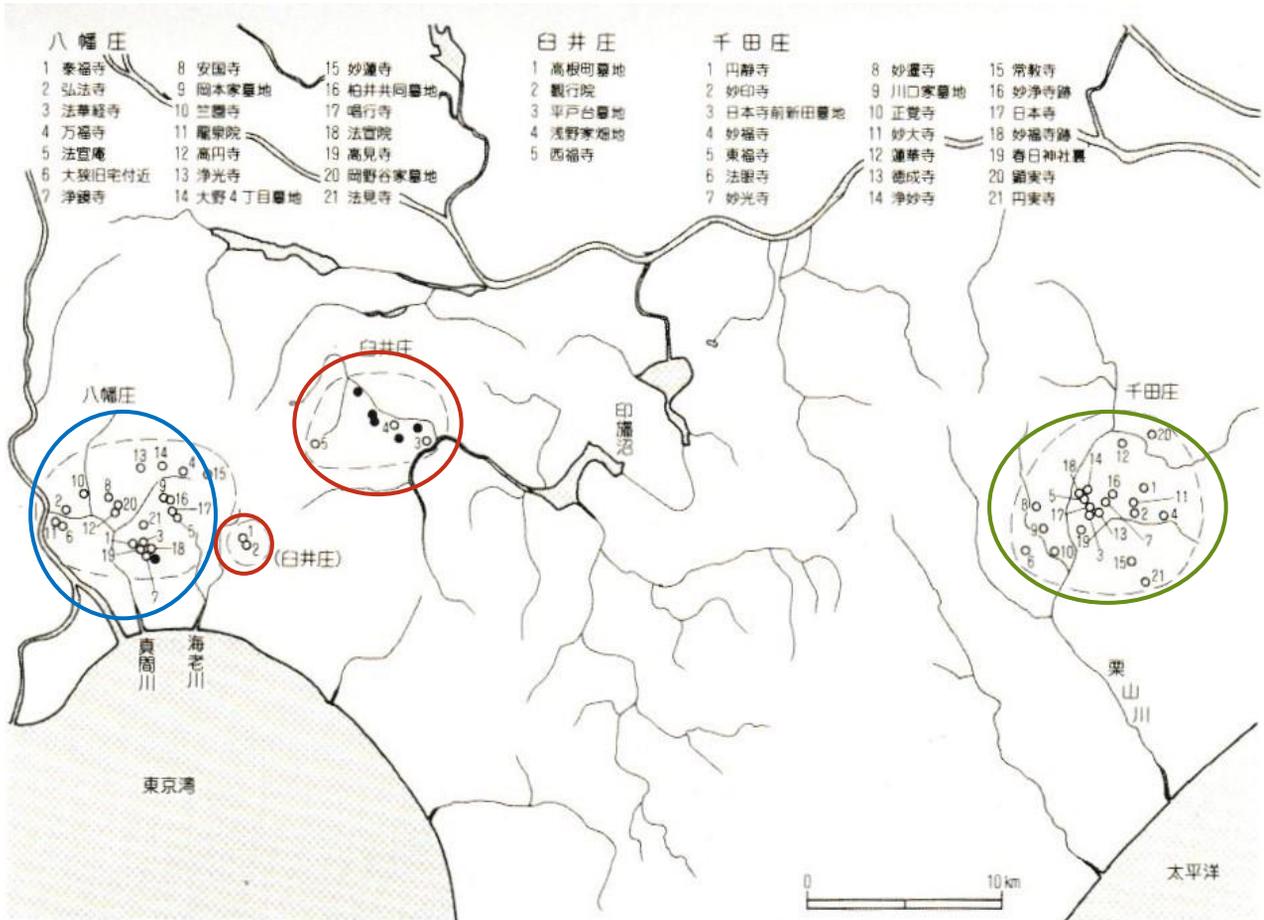
平胤貞（花押）



千葉県国史館（中山法華経寺文書） 中山法華経寺藏 元徳3年(1331)
千葉胤貞が中山法華経寺第3代賢首日祐に寺領を譲与したもの。東国の多くの所領とともに、「肥前国小城郡光勝寺職（阿闍梨主職）」として光勝寺の名がはじめている。

29. 千葉県北部の題目板碑の分布

中山法華経寺への譲与が行われた千田庄・白井庄・八幡庄の一部地域では、題目板碑が多く分布しています。なお、千田庄は下総型の題目板碑が、白井庄・八幡庄は武蔵型の題目板碑が多いです。



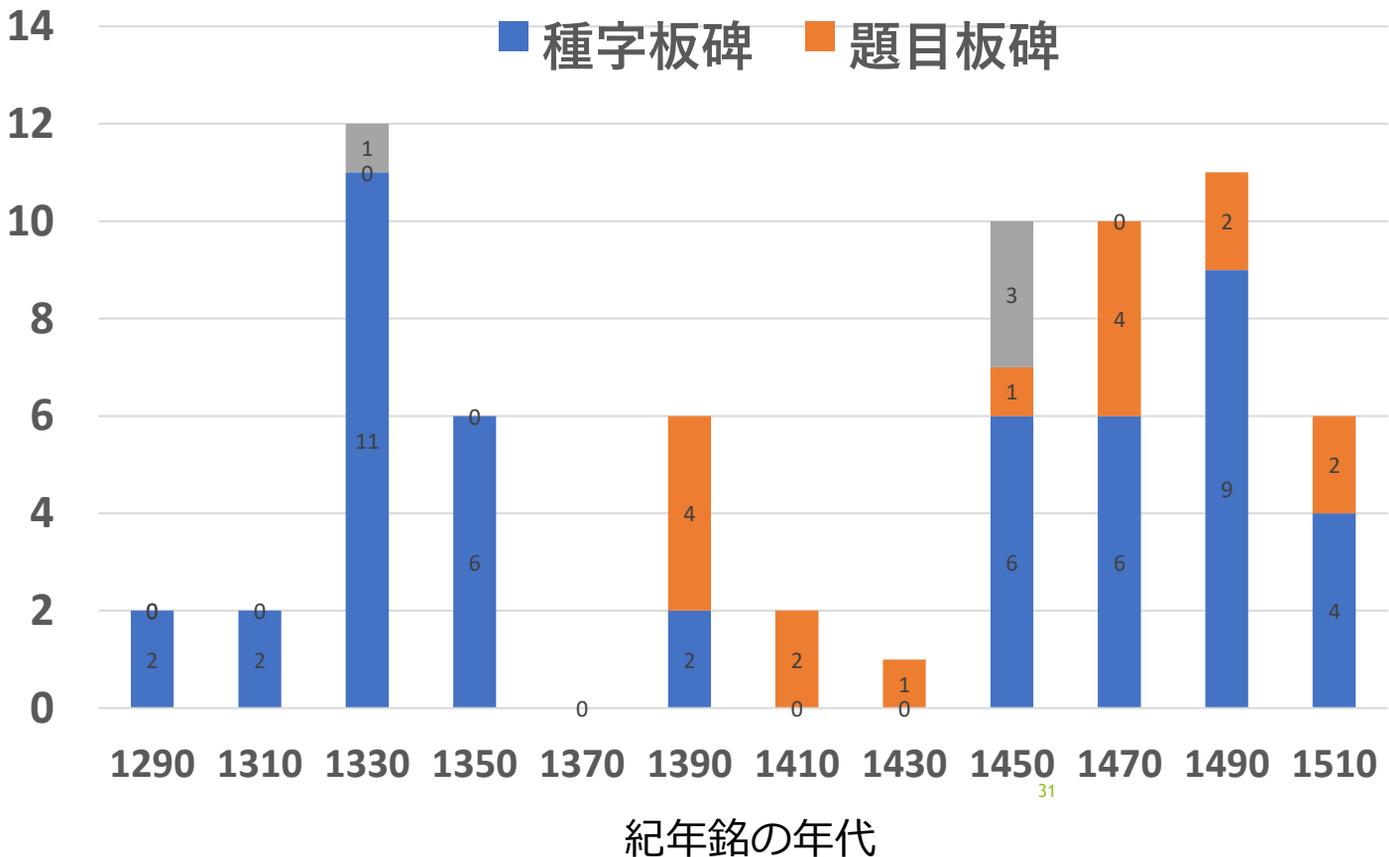
第1図 下総における中山門流下の題目板碑 (●造立趣旨不明題目板碑)

30.八千代市内の板碑の種類と年代

・年銘のある板碑の数は68基で、13世紀末から14世紀中葉までは種字板碑が、14世紀末からは題目板碑が現れて、16世紀初頭まで種字板碑と題目板碑が並行して建立されています。

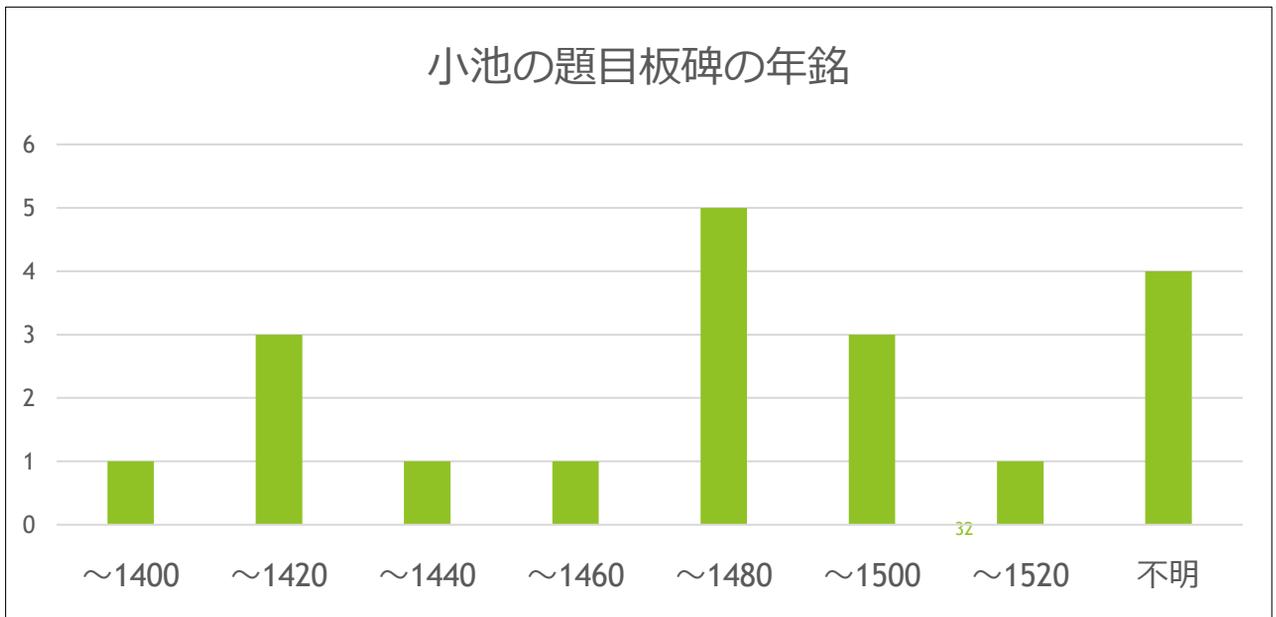
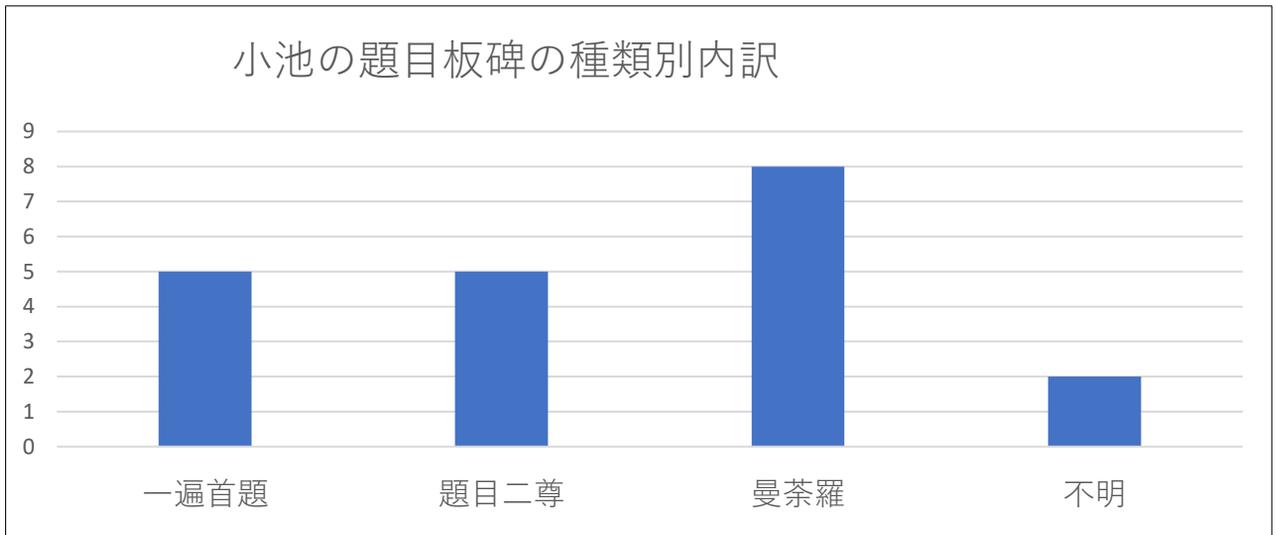
・真木野の1290年代の板碑3基は種子板碑と推定され、八千代市内に日蓮宗が広まるのは、14世紀末以降と考えられます。

八千代市内の年銘のある板碑の種類別・年代別グラフ



31小池の題目板碑の特徴

- ・小池の板碑の総数は20基で、すべてが題目板碑と推定されます。
- ・年銘の古いのは明德2年（1391）で、15世紀後半にピークを迎え、16世紀初頭まで続きます。
- ・種類は、「一遍首題」が5基、「題目二尊」が5基、「曼荼羅板碑」が8基で、神仏数の多い十界曼荼羅を丁寧に彫った板碑が多いのが小池の特徴です。



32.おわりに

八千代市内の日蓮宗地域の中でも、小池では最多の20基の板碑が見つかっていて、この地域の題目板碑の種類や時代をよく表しています。

板碑の年銘の14世紀末から16世紀初頭は戦乱の絶えない時代ですが、小池や佐山・平戸などの村々では、その指導者層が安定したイエを営み、法華宗の寺に集い、敬虔な信仰生活を送っていたことでしょう。

八千代市郷土歴史研究会では、2020年の神野の多量の板碑発見とその調査内容を「ふるさとの歴史展」で発表して以来、板碑について皆様に興味を持っていただき、神野の十三仏板碑、また今回の小池の明德4年題目板碑の発見につながりました。

そう！ まだお宅の畑や納屋の片隅に、貴重な板碑が眠っているかもしれませんね。